陸の水（*Limnology in Tokai Region of Japan*）**70** : 61（2015）

廣正義先生の逝去と研究の歩み

八木明彦[1)]

Academic career of Professor Dr. Masayoshi HIRO

Akihiko YAGI[1)]

5月16日早朝に廣正義先生が逝去されました。1916年（大正5年）三重県のお生まれで98歳でした。先生は日本陸水学会名誉会員，東海支部会元会員で，1999年10月23日名古屋女子大学で開催された日本陸水学100年記念行事に，故西條八束先生と共に尽力されました。また，この行事を契機に日本陸水学会東海支部会を立ち上げるきっかけと後押しをしたお一人でもあります。昭和40年代日本生態学会中部支部会長も務めました。陸水学では「河川水生昆虫トビゲラの分類生態」をテーマとして研究しその成果は「矢作川水系における水生昆虫の群集生態学的研究（1965年11月）として，東北大学より学位論文（加藤陸奥雄教授指導）を得ています。また，その応用で，1967年「水力発電所導水路内におけるトビケラ類の生態学的研究」で，水力発電の電力低下除去に貢献しました。

先生は奈良女子大学津田松苗教授の門下生として生物学的水質判定法を学び，中部地方の河川で調査研究を実施しました。矢作川を主なフィールドとしたトビケラの研究で学位を取られましたがその成果を，木曽川・長良川・揖斐川・豊川・庄内川，更には名古屋市の主要な河川についても拡大させ，精力的に調査活動をしました。同時に，当時の建設省と豊橋工事事務所を始め，関係する各河川工事事務所や名古屋市等にも熱心に相談に乗り，官民ともほとんど知られていなかった生物学的水質判定法を広めました。一方，名古屋女子大学では，当時の女子大学としては非常に希な「陸水学」や「生態学」を開講されていました。アジェンダ21に記載されている「環境における女性の役割の重要性」を当時既に，先取りしていました。

1960年代末に始まった，国際生物学事業計画 Internationa1 BiologicaIProgram:IBP）では，琵琶湖班と吉野川班に参加されました。琵琶湖班は京都大学・臨湖実験所を中心としてメンバーが結成され，廣先生は二次生産班長として，森主一（全体の班長），川那部浩哉（魚），根来健一（プランクトン），中西正己（一次生産），森井ふじ（水質），生島功（水草），門田元（分解），菅原 庸（微生物），堀江成治（化学），佐藤正孝（ベントス）と共に研究を進められました。琵琶湖での研究成果は，広･佐藤（1972）として結実しています。更に，奈良女子大学の津田松苗教授を中心とした奈良県吉野川水系研究でも活躍され，谷田一三（ベントス），渡辺仁治 （付着藻類），森下郁子（生物），藤井富美子（細菌）の各研究者と共に活躍されました。晩年の数十年は日・中・韓・ASEAN学術連盟の会長として，国際協力に貢献されました。

廣正義先生（2004年1月3日 ご自宅にて。
八木明彦博士提供）

[1)] 愛知工業大学〒470-0392愛知県豊田市八草町八千草1247，Aichi Institute of Technology, 1247 Yachikusa Yakusa-cho Toyota, Aichi 470-0392, Japan